



愛川ふれあいの村1月の風景

平成27年1月 自然のたより

年が明けました。朝方は霜が降りるほど寒いですが、スイセンやウメの花が開いています。冬晴れの日には暖かく、太陽の光を一身に受け春までの養分を蓄えようとロゼットは葉を広げています。

また、他の季節と比べて食料の少ない時期なので、食料を求めて様々な野鳥やサルが村を訪れていました。



村のみかんを食べているサル



ビワの花とメジロ



ロウバイ



シロハラ



ドリツグ をしているコゲラ



キビタキのメス



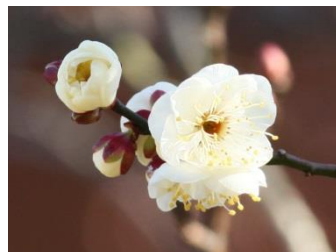
カラスの巣（木の枝）



雨に濡れたスイセン



リスの食痕(ド イットヒ)



ハクバイ（白梅）



コウバイ（紅梅）



コソウリナ



ハルジオン



ヒメジョオン



ノゲシ

★知られざる野鳥の舌★

鳥にはいろいろな形の「舌」がある?!

村にはたくさんの野鳥が訪れています。今は葉が落ちて木の枝がむき出しになっているため、野鳥観察には最適な時期です。静かな村で耳を澄ますとコツコツという音が聞こえます。見上げるとそこにキツツキの仲間のコゲラがいました。木の中の昆虫を長い舌で捕まえて食べます。一方、村でよく見られるメジロは花のミツや木の実を食べます。ミツを舐めるため舌の先は細く、ブラシ状になっています。

身近な鳥でも、じっくり観察したり調べたりすると、隠された特技や不思議な個性があります。是非、みなさんも野鳥の「特性」を見つけてみてください。きっと新たな発見や驚きがありますよ。



★足元の「ロゼット」★

地面から放射状に葉が広がって平らになっている葉を「ロゼット」と言います。例えば、タンポポや、草相撲の時に使うオオバコなどは、ロゼットです。このロゼットは冬でも芝生などでたくさん見られます。

ロゼットは色々な形の葉があり、細長い葉、先端の丸い葉など、個性派揃いです。また、外から見えない根の部分は種類が同じでも根強く生きるために生息地によって生え方が変わります。ダイコンの様にまっすぐな太い根から細い根が出るもの、細い根が横に伸びているものと様々です。

強く地に根付いているロゼットは踏まれても耐えられる強さを持っています。冬の寒い時期でも葉を広げて、春を待っています。そうして冬を越え、暖かくなった頃、たくさんの花を咲かせて春を彩っています。

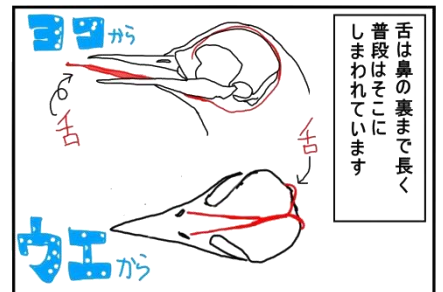


▲身近なタンポポ



▲踏みつけに強いオオバコ

舌の話



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子・葉青芳

文章・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村
で、検索★